

# 「戦国時代における刈田郡湯原城の役割」

七ヶ宿街道は、南北朝時代後期の伊達氏八世宗遠と九世政宗が伊達地方(福島県)から置賜地方(山形県)への侵攻に利用されます。その後も置賜と本拠地伊達を結ぶ主要軍事道路となっています。また、関ヶ原合戦の頃、七ヶ宿街道は伊達氏と上杉氏の攻防の舞台となり、湯原城の重要性を認識した政宗(独眼竜)は、茂庭綱元に湯原城を攻めさせています。

今回のフォーラムでは、戦国時代に伊達氏が主要軍事路として往来した七ヶ宿街道の歴史と刈田郡湯原城の役割や、これまで行われた湯原城発掘調査の結果から見てきたものを紹介し、湯原城を中心にした七ヶ宿町の歴史について考えました。

○日時 令和元年9月14日(土) 13:00~16:15  
○会場 街道 HOSTEL「おたて」体育館(旧湯原小学校)

◇講演Ⅰ 「七ヶ宿街道の成立と湯原城ー戦国時代の伊達領を支えた大動脈ー」  
講師:菅野正道氏(前仙台市博物館主幹)

◇講演Ⅱ 「発掘が語る湯原城跡」  
講師:吉井宏氏(前東北福祉大学教授)

◇ディスカッション 「戦国時代の街道と城館」  
司会 島津憲一氏(羽州街道交流会代表幹事)  
出演者 菅野正道氏・吉井宏氏



菅野正道氏

- ・南北朝時代以後、1300年代に勢力を拡大した伊達氏は、伊達郡から、出羽国置賜地方などへ進出。
- ・伊達領において、伊達郡と置賜地方を結ぶ主要交通路として、二井宿峠を越え高島に至る道が重要な役割を果たした。
- ・湯原は、この二井宿街道の主要拠点として、商人や職人が住む町場が形成されていた可能性が高い。
- ・湯原城の築城時期は戦国時代まで遡れる。山城と町場集落が一体となっていた可能性が考えられる。
- ・刈田郡は天正年代の伊達氏の領地替えにより一時期蒲生氏や上杉氏の所領となり、関ヶ原合戦に際し、伊達氏と上杉氏の攻防の舞台となった。以後、江戸時代から幕末まで仙台藩領となり、伊達氏が進めた街道整備により近世的な宿場町となった。



吉井宏氏



戦国時代の主要城館と主な街道



会場の様子



島津憲一氏

- ・今回のフォーラムの目的のひとつに、湯原城の役割をある程度明確にしたい、それから、湯原の街並み、城と一体となったその役割を明らかにしたい。
- ・近隣には、伊達氏の屋代館(二井宿峠の城館)などがあるが、そういったところとの関係、国境警備的な役割もあったのだろうか、両先生にお話をお聞きしたい。

- ・現地状況や絵図面等より、橋や枅形、虎口、屏風折土塁、丸馬出と思われる遺構の存在は明らかとなり、黒川郡や角田など、周辺の類似する城館の年代より、慶長五年再建説は妥当と考えられる。
- ・慶長五年説の検証、再建以前の湯原城、枅形・廊下等の構造を知るため、湯原城の3次にわたる発掘調査を行った。
- ・思いもかけないところに段差が出た、明らかに持ち込んだと思われる黒土が見つかった、積み土、地山、切れ込みの違いから3期に分かれて工事が行われていると考えられるなど、新たな謎が多く見つかった。
- ・発掘を通じてわかったことは、①3期の工事が行われていると考えられる。②最終期が慶長の工事と考えられるが、それ以前の1期、2期の工事がいつだれが行ったかは、今後明らかにしたい。
- ・今後の課題として、「考古学、文献史学、縄張り研究、三位一体の研究の重要性」「地域にとってかけがえのない重要な遺跡であることの認識」が重要である。

- 【菅野氏】交通の要衝としての役割はずっと重要であったが、軍事的な重要性は時代によってずいぶん変わっている。時代の要請に応じ様々に改築されたのではないか。
- 【吉井氏】屋代館と湯原は、峠を挟んで両側で両方もすぐ近くに貝吹山という山があり、その名から法螺貝を吹いて敵の来るのを知らせる役割があったと考えられ、城館・貝吹山・川という構造がそっくりである。
- 【まとめ】伊達郡と置賜地方を結ぶ峠の中で二井宿峠は最も標高が低く、通りやすい道であるが、その東西を固める屋代館と湯原の絵にかいたような共通項など、今後解明すべき課題が明らかとなった。



【七ヶ宿街道交流会】第2部:七ヶ宿街道探訪会「石が語りかける歴史と文化を探る」 [令和元年9月15日(日)]

七ヶ宿街道とは、桑折(伊達郡)から小坂峠、七ヶ宿、二井宿峠を経て置賜地方に至る二井宿街道と金山峠越え羽州街道の通称名です。

二井宿街道は古くから重要な交通路としてあったと思われ、南北朝時代の1300年代後期から伊達氏本拠地の伊達地方と置賜地方を結ぶ主要軍事道路で、関ヶ原合戦頃の湯原周辺は伊達氏と上杉氏の攻防の舞台となっていました。そして関ヶ原後に刈田郡が政宗に与えられてからは、伊達家一門筆頭石川氏の家臣が湯原城を拠点に藩境警備にあたりました。

一方、七ヶ宿町湯原を過ぎた追分を経た金山峠越えの羽州街道は、明暦2年(1656)に急坂を馬がすれ違えるように改修が行われたことから、日本海側の13大名が参勤交代が往復するなど、それまでの笹谷峠越えからこの街道を利用するようになりました。

交流会第2部(2日目)は、「七ヶ宿町水と歴史の館」で開催されている企画展「七ヶ宿街道沿いの石の祈り～石が語りかける歴史と文化～」の観覧とともに、湯原城跡及び七ヶ宿街道・羽州街道沿線の歴史と文化を探りました。

➤日時 令和元年9月15日(日) 9:00～15:00 ○集合 9:00 七ヶ宿町水と歴史の館玄関前(「道の駅・七ヶ宿」隣)

➤主催等 主催:みやぎ街道交流会・七ヶ宿町水と歴史の館 共催:とうほく街道会議

➤経路 (解説:案内:七ヶ宿町水と歴史の館長・みやぎ街道交流会幹事 高橋正雄氏)

9:00 七ヶ宿町水と歴史の館企画展「七ヶ宿街道沿いの石の祈り～石が語りかける歴史と文化～」の観覧

10:30 七ヶ宿街道・羽州街道追分碑～羽州街道金山峠(山形県境)～干蒲(間宿)の古碑群～東光寺・9世政宗碑(湯原宿)～湯原城跡～公海坊の墓(峠田宿)～親子松(字苗代端)～関泉寺・聖観音像(関宿)～賽の河原地蔵尊碑(字萩崎)～

13:30 道の駅「七ヶ宿」(昼食)～木喰上人“輪海”の碑(旧「道の駅」向かい)～15:00解散 (移動は七ヶ宿町バスを予定)



展示室の様子



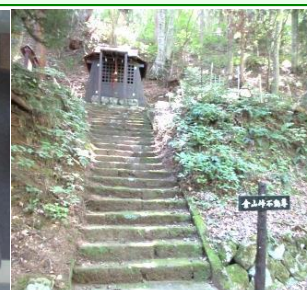
猫の石像



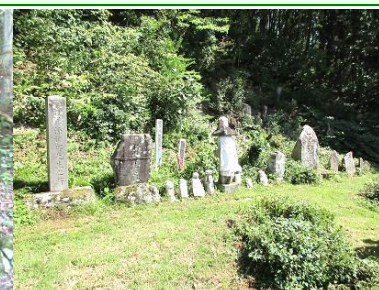
猪の石像



人馬印鑑(公用通行証)



金山峠不動尊



干蒲の古碑群

七ヶ宿町水と歴史の館企画展



東光寺の儀山公碑



湯原城絵図



東館の虎口付近



上館

湯原城跡



関・聖観音像



賽の河原地蔵尊碑



輪海上人碑